

みなみネット

kagoshima

プロジェクト記者発表



高血圧ゼロの街に向けて連携する(左から)鹿児島大学の大石充教授、前田祝成枕崎市長、尾辻和彦枕崎市医師会会長 28日、枕崎市役所

高血圧ゼロ目指す

枕崎市と鹿大、医師会連携

枕崎市は「高血圧ゼロの街」を目指し、来年度から3年間、枕崎市医師会(尾辻和彦会長)や鹿児島大学と連

携して、血圧を下げることに特化した高血圧対策事業に取り組む。多くの市民が利用する公共施設やスーパーな

る。人口格差を考慮した「標準化死亡比」(2012〜16年)で、同市の脳血管疾患死亡率は男女とも県内19市でワースト1位。患者に占める高血圧症の割合は全体の約8割に上る。事業では血圧を「測る、知る、上げない」取り組みを進める。市内事業所の協力を得て、コンビニや居酒屋、パチンコ店などにも血圧計を置く。集めた測定データから地域特性

を分析し、必要に応じた医療機関の受診を勧奨する。小中高校での測定や測定を促すイベント(5月18日)も開く予定だ。
3月28日、市役所で会見した鹿大の大石充教授(55)は「血圧を測るだけでも、脳卒中が激減した実例があり、疾患はかなり減ると予想している。日本高血圧学会なども注目しており、ぜひ成功させたい」と述べた。前田祝成市長は「多くの市民に測定を啓発し、生活習慣病の重症化の予防や国民健康保険の財政健全化につなげた」と述べた。
(入角里絵子)